



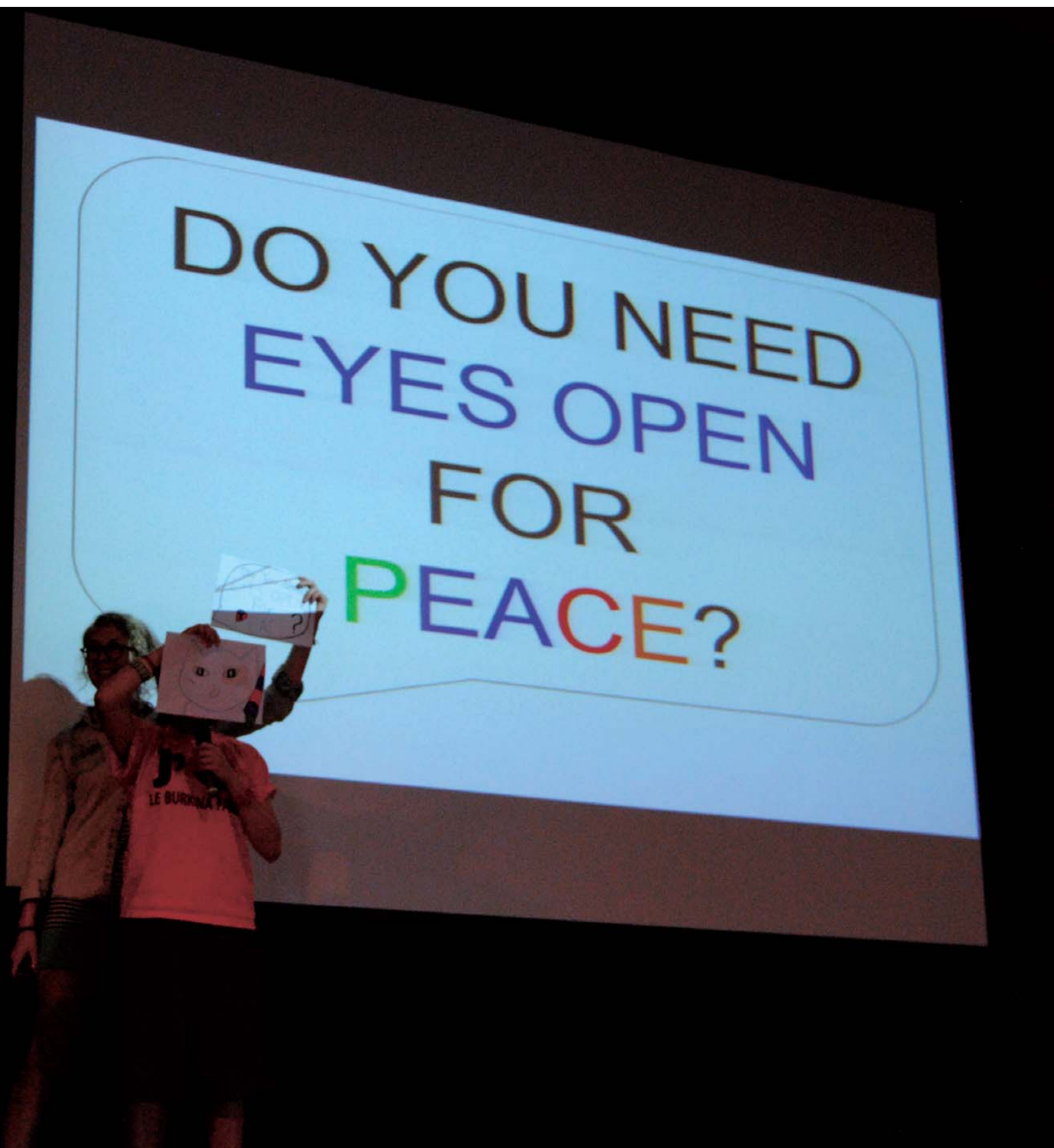
2013

広島県補助事業：＜高大連携による留学支援講座＞
平成25年度 大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業
■実施事業報告

to Study Abroad



HIROSHIMA JOGAKUIN UNIVERSITY



被爆都市広島から世界に留学
広島県人としての
アイデンティティーと知識を持つ

◎ 長尾ひろみ
広島女学院大学 学長

ごあいさつ

昨年に引き続き、2013年度も広島の4つの大学が連携し、また広島県の補助事業として高大連携留学支援講座を持つことができました。

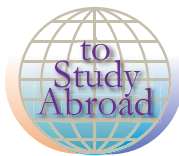
大学生と高校生と一緒に勉強するという機会はなかなか無く、最初は双方に戸惑いもあったようです。高校一年生から大学4年生までの年齢差があるわけですから当然でしょう。しかし、講義を重ねるにつれて、兄弟姉妹のように打ち解け、それぞれが持ったキャラクターでディスカッションをすることができ、グループごとに一つのことをまとめることができました。

この留学支援講座は、広島から世界に出てゆく生徒、学生を支援するものです。もちろん他文化の中に飛び込むということは大変難しいことでもあります。不安もあります。しかし、「不安」というものは、「無知」からくる場合が多く、文化、言語、コミュニケーションの内容を持っていたら「不安」になることはなく、楽しい「チャレンジ」になるはずです。

まずは、知識として講座の中に広島のことを入れました。広島には二つの世界遺産があります。それを、誇りをもって留学先に紹介してほしい。宮島、原爆ドームの写真を示すだけでなく、その意味するところを伝えてほしいと願いました。広島歴史、そして広島が発信できる「平和への願い」はみんなに共通して持てたと思います。

その他に、音楽、宗教、経済、文化。限られた時間の中で、4つの大学から専門の教授陣に教えてもらいました。高校生には少しつらい90分だったかもしれませんが、でも、振り返ればたくさんの知識を身に付けたことでしょう。

この体験を踏まえて、世界に飛び出し、グローバルな人間になってほしいと思います。そして広島に帰ってきて、広島を支えられる人材(財)になってくれることを期待します。



講座の開始にあたって

● 湯崎英彦 広島県知事

ごあいさつ

受講生の皆さん、こんにちは。
広島県知事の湯崎です。

「高大連携による留学支援講座」のスタートに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

この講座は昨年度からスタートし、今年で2年目となります。昨年度、この講座を受講して留学した方々から、留学の準備に際し大変参考になり、海外に対する不安が軽減されたといった御意見をいただいております。特に、日本や広島について、英語できちんと説明できるようになったことが、とても役に立ったという声を多くいただきました。

皆さんは今、何を一番不安に感じていますか。外国語によるコミュニケーションについて、不安に感じている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。この講座では、英語によるプレゼンテーションやネイティブの方とのディスカッションなどを通じ、英語によるコミュニケーション力を身につけることができますが、それだけではなく、外国の文化や生活習慣などの理解、日本文化の再認識、世界における宗教観や各国の経済情勢など、海外で生活していくうえで必要な知識や慣習を学ぶことができます。そして、留学に対する期待やそれぞれの夢について語り合える仲間と、ともに学ぶことは、未知の世界に飛び込んでいこうとしている皆さんにとって、なによりの励みになることと思います。

この講座を通じて、しっかりと留学の準備をしていただき、希望と自信を持って、世界への第一歩を踏み出してください。皆さんにとって有意義で、思い出に残る留学ができますよう心から願っております。

そして、国際的な広い視野に立ち、外国語によるコミュニケーションはもちろん、外国の人々や文化を理解できる資質・能力とともに、広島や日本の文化を発信できる力を身につけ、グローバル社会で大いに活躍できる社会人となられますよう期待しています。

* 上記は、講座の開始にあたり、湯崎広島県知事から受講生へ向けて届けられたビデオメッセージの内容です。

<受講生の声>



● 山崎 桃さん

・広島女学院大学 国際教養学部1年

私は今回、学校の先生に勧められてこのプログラムに参加しました。漠然と「留学」ということを考えていましたが、このプログラムに参加することで、徐々に具体的に考えていくことができるようになりました。

このプログラムの講義では毎回様々なテーマに取り組み、今まで興味なかった事柄にも興味を持てるようになり、より幅広い視点で物事を捉えることができるようになりました。また、留学をするためには留学先の国の事だけではなく、日本のこともしっかりと理解していなくてはならないのだという基本的なことにも改めて気付かされました。このプログラムは、私の世界をより広げてくれるものとなりました。



● 津村美咲さん

・広島女学院中学高等学校 2年

もともと留学に興味があり、学校でこの講座のことを聞いて参加しました。参加できない講義もありましたが、とても内容が充実していました。特に心に残ったのは、医療の話でした。海外での実際の活動の紹介や、医療・考え方などにおける日本との違いを教えてください、興味深かったです。また宮島へのフィールドワークや日本の伝統文化の講義からも多くのことを学び、海外の事だけではなく、日本についても詳しくなることができました。ぜひたくさんの方に参加してもらいたい講座です！留学する時には、今回学んだことを英語で話せるようになりたいです。

また宮島へのフィールドワークや日本の伝統文化の講義からも多くのことを学び、海外の事だけではなく、日本についても詳しくなることができました。ぜひたくさんの方に参加してもらいたい講座です！留学する時には、今回学んだことを英語で話せるようになりたいです。



● 浜川壱哉さん

・県立広島大学 人間文化学部国際文化学科1年

この講義を受けるまで僕は、「留学に必要なのは語学力だけ」と思い込んでいましたが、それは間違いでした。もちろん語学力は必要ですが、それだけでは留学先で大変な苦勞をすることになるでしょう。大切なのは、留学先の国の文化、宗教、慣習、考え方等を学ぶことです。僕はこの講義を通して、文化の違いを知り、受け入れ、乗り越えることの大切さを学びました。この講義で様々な国の人と出会い、多様な価値観、モノの見方、考え方に触れたことで自分の見識を深めることができたと思います。

僕はこの講義を通して、文化の違いを知り、受け入れ、乗り越えることの大切さを学びました。この講義で様々な国の人と出会い、多様な価値観、モノの見方、考え方に触れたことで自分の見識を深めることができたと思います。



● 志賀良平さん

・広島県立広島国泰寺高等学校 1年

この講座のことは学校で知りました。留学するつもりだったのですぐに参加を決意しました。印象に残っている講義は宮島でのフィールドワークです。僕の最初の講義で、宮島のことを何十倍も知ることができてよかったです。男子は少なかったのですが、大学生が優しく声をかけてくださり有意義に講義を受けることができました。この講座のおかげで日本の理解を深めることができました。

この講座のおかげで日本の理解を深めることができました。



● 小田孝浩さん

・広島修道大学 人文学部英語英文学科3年

僕がこのプログラムに参加した理由はなぜ自分が留学したいのかを明確にしたかったからです。留学をするといっても、英語ができるようになりたいという漠然とした理由しかありませんでした。しかし、このプログラムに参加し、英語力を伸ばすだけでなく、その英語を使って社会に貢献できるようになりたいという目標ができました。みなさんも是非このプログラムに参加し、素晴らしい先生方や学生たちと会って、刺激を受けてみましょう！素晴らしい経験になること間違いなしですよ！

僕がこのプログラムに参加した理由はなぜ自分が留学したいのかを明確にしたかったからです。留学をするといっても、英語ができるようになりたいという漠然とした理由しかありませんでした。しかし、このプログラムに参加し、英語力を伸ばすだけでなく、その英語を使って社会に貢献できるようになりたいという目標ができました。みなさんも是非このプログラムに参加し、素晴らしい先生方や学生たちと会って、刺激を受けてみましょう！素晴らしい経験になること間違いなしですよ！

- ・実施大学：広島女学院大学(代表校)、県立広島大学、エリザベト音楽大学、広島国際大学
- ・関係団体：広島県公立高等学校長協会、広島県公立学校校長会連合会、広島県私立中学高等学校協会校長会、広島女学院中学高等学校、一般財団法人ひろぎん経済研究所
- ・実施期間：平成25年5月11日(土)から6月30日(日)まで

■参加者

・参加人数 28名

<内訳> [高校生] 10名 (女性8名、男性2名)

(所属高校)：広島県立高陽高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、広島県立広島皆実高等学校、広島女学院中学高等学校

[大学生] 18名 (女性15名、男性3名)

(所属大学)：県立広島大学、広島経済大学、広島修道大学、広島女学院大学

Study Curriculum

広島県補助事業：<高大連携による留学支援講座>
平成25年度 大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業

■ 講座コンセプト

目指せ、留学！
羽ばたけ広島！
高大連携で若者を世界へ。

[講座の目的]

本講座は、広島県内の留学を目指す高校生、大学生を対象として、留学への不安を解消し、その効果を高めるための準備をすることを目的とした。

具体的には、下記2点を到達目標とした。

- ① 留学する前に必要とされる多分野における知識(日本及び広島の文化・歴史、世界を取り巻く問題に関する基礎知識と世界における日本の位置づけ、世界の宗教と文化、戦争と平和など)を得る。
- ② プログラムを通して得た知識をもとに、自分の意見を持ち、相手に伝えることができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成を行い、スムーズに留学生活を送るための準備を整える。

また、ワークショップやプレゼンテーションでは、大学生・高校生の混成グループを編成することで、英語学修意欲や留学への意欲の向上も目指した。

[単位認定について]

本講座は、一般社団法人教育ネットワーク中国の単位互換科目とし、単位認定が可能な大学生及び高校生には、単位認定を行った。

[遠隔講義について]

本講座では、講義実施場所での受講が困難な受講生に対して、一部の講義に限り*テレビ会議システムを運用した遠隔講義の受講を可能とした。

*グループワークやフィールドワーク、音楽についての講義、合宿を含むワークショップなど参加体験型の講義については、対面受講のみとした。

[授業計画(カリキュラム内容・講義概要)]

回	日時	講義/講師名	内容	実施形式	通称
1	5月11日(土) 14:00-15:30	「海外留学総論」 Courtney Lawrence (広島女学院大学)	留学を控えて海外での生活を体験する。本プログラムの紹介と導入をすべて英語で行う。	対面・グループワーク	不可
2	5月11日(土) 15:40-17:10	「異文化コミュニケーション」 Courtney Lawrence (広島女学院大学)	他の文化を理解することから始める。日本の文化、アメリカの文化、イギリスの文化の比較と、生活習慣の違いを学ぶ。	対面・グループワーク	不可
3・4	5月12日(日) 10:30-15:00	「宮島で日本文化について考えよう」 秋山伸隆・大知徳子 (県立広島大学)	宮島でのフィールドワークを通して日本文化を感じる。世界遺産厳島神社を守り伝えてきた人々の努力と思いを知る。	フィールドワーク	不可
5	5月18日(土) 14:40-16:10	「アラブの春」から2年=民主社会の実現に立ちあがる宗教と暴力」 浅沼 潤 (広島国際大学)	アラブ世界の現実の理解を通じ、国際社会を見通す目を養う。	対面	可
6	5月18日(土) 16:20-17:50	「ヒロシマから平和を考える」 Ronni Alexander (神戸大学大学院国際協力研究科)	広島に投下された原爆。留学先でどう伝えれば良いだろうか? 講義では、原爆から見てくる世界平和などについても学ぶ。	対面	可
7	5月25日(土) 14:40-16:10	「グローバル経済の光と影」 小松正昭 (広島女学院大学)	この授業によって、受講生の皆さんがユーロ危機などのグローバルな経済問題に興味を持ち、理解を深めてくれることを期待しています。	対面	可
8	5月25日(土) 16:20-17:50	「世界と宗教」 澤村雅史 (広島女学院大学)	世界における「宗教」の位置づけを知り、日本人の宗教観の特徴について理解する。また、宗教的世界観と科学的世界観の関係を理解する。	対面	可
9	6月 1日(土) 16:20-17:50	「保健医療分野における留学と発展途上国での活動の実例」 尾形 聡 (広島国際大学)	保健医療分野で海外留学するためのノウハウと発展途上国における日本の援助の現状・問題点について理解する。	対面	可
10	6月 8日(土) 14:00-15:30	「欧米文化における音楽—キリスト教音楽を中心に—」 佐々木悠 (エリザベト音楽大学)	欧米文化における音楽とキリスト教とのかかわりを知ることで、文化と宗教の繋がりを理解する。	対面	不可
11	6月 8日(土) 15:40-17:10	「雅楽で感じる伝統文化」 片桐 功 (エリザベト音楽大学)	雅楽の歴史を知り、現在どのように行われているのかを知ることで、様々な変化の中で、日本の伝統文化がどのように継承されているのかを理解する。	対面	不可
12	6月 9日(日) 13:00-14:30	「戦場から平和を考える」 渡部陽一 (戦場カメラマン・ジャーナリスト)	留学するにあたり、平和の意味を考える。その為に、戦場カメラマンから現場の話や、カメラマンの目から見える平和への思いを受講生とともに考える。	対面	不可
13・14	6月29日(土) 13:30-16:40	「ワークショップ・合宿」 Ronni Alexander (神戸大学大学院国際協力研究科)	ポーキー・ピース・プロジェクトの手法を用いて、これまでのプログラムで学んだことを留学に活かすためのワークショップを行う。またワークショップの最後には、「創造的な発表」の準備を行う。	対面・グループワーク	不可
15	6月30日(日) 9:00-12:00	「プレゼンテーション・総評」 Ronni Alexander (神戸大学大学院国際協力研究科)	創造的な発表(プレゼンテーション)を行うとともに、今後の留学にどのような活かすのかを考え、留学準備を支援する。	対面	不可

1

第1回 [海外留学総論]

〈担当講師〉 Courtney Lawrence (広島女学院大学/専任講師)
 〈開講日時〉 2013年5月11日(土) 14:00~15:30
 〈場 所〉 広島女学院大学 ヒノハラホール アセンブリーホール
 〈授業形式〉 対面講義、グループワーク
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 15名
 〈内 容〉 講座の開始に当たり、湯崎英彦広島県知事より参加者に向け、ビデオを通じてメッセージをいただいた。その後、参加者全員が英語で自己紹介(出身地・行きたい国・海外へ行ったことがあるか・趣味等)を行った。また、言葉を使用せずに全員が誕生日順に1列に並ぶというアクティビティに挑戦し、言語によるコミュニケーションと言語以外のコミュニケーションについて体験的に学んだ。



2

第2回 [異文化コミュニケーション]

〈担当講師〉 Courtney Lawrence (広島女学院大学/専任講師)
 〈開講日時〉 2013年5月11日(土) 15:40~17:10
 〈場 所〉 広島女学院大学 ヒノハラホール アセンブリーホール
 〈授業形式〉 対面講義、グループワーク
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 20名
 〈内 容〉 様々な人と様々な方法でコミュニケーションをはかるためのアクティビティをいくつか行った。例えば、兄弟・姉妹はいるか、好きな事や好きな食べ物、宗教、卒業したら何をしたいか等について、グループに分かれて互いに紹介した後、相手を皆の前で紹介しあった。また講義を通して異文化コミュニケーションとは何かを学び、留学における様々なシチュエーションのもとで、劇を作成し、発表した。文化や生活習慣の違いを学び、異文化を理解し、どのようにコミュニケーションをとっていくのかを体験的に学び、考えることができた。



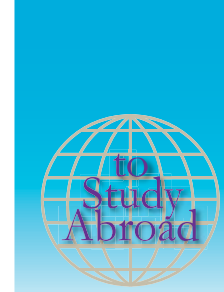
3

第3・4回 [宮島で日本文化について考えよう]



〈担当講師〉 秋山伸隆 (県立広島大学 教授/副学長)
 大知徳子 (県立広島大学 宮島学センター/助教)
 〈開講日時〉 2013年5月12日(日) 10:30~15:00
 〈場 所〉 宮島
 〈授業形式〉 フィールドワーク
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 18名
 〈内 容〉 栈橋に集合し、2グループに分かれ島内散策を行った。1グループは誓真釣井をはじめ、町家通りを抜けて要害山と幸神社を見学するルート、もう1グループは日本三景の碑を見学した後、波打ち際を通り石垣、狛犬の説明を聞きながら海岸通りを抜けるルートを散策し、五重塔・千畳閣で合流した。その後、厳島神社、大願寺、紅葉谷を巡り、建築や文化財、宮島の歴史について学んだ。神仏習合と神仏分離、広島市の歴史と宮島の歴史、海外の人々から見た厳島神社、世界遺産として登録されている厳島神社を地域の人がどのように守ってきたのか、また今後もどのように守り、継承していくのかを、文化財や建築などを実際にし、触れることによって学ぶことができた。





5

第5回 [「アラブの春」から2年=民主社会の実現に立ちはだかる宗教と暴力]

〈担当講師〉 浅沼 潤(広島国際大学 国際交流センター長/特任教授)
 〈開講日時〉 2013年5月18日(土) 14:40~16:10
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 22名(他DVDでの受講2名)
 〈内 容〉 2011年1月にチュニジアを発火点として始まった「アラブの春」と呼ばれるアラブ世界の大変革が、どこへ向かおうとしているのか。スルタン体制の崩壊を、エジプトのムバラク体制やイスラム共同体、イスラム原理主義や復古主義など宗教と民族の関わりを学ぶことを通して、アラブ世界の現実への理解を深めた。また国際社会を経済や歴史の流れを踏まえ、多角的な視点で考察する能力を身につけることの重要性も学んだ。



6

第6回 [ヒロシマから平和を考える]

〈担当講師〉 Ronni Alexander(神戸大学大学院国際協力研究科/教授)
 〈開講日時〉 2013年5月18日(土) 16:20~17:50
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 英語(日本語) 〈参加人数〉 16名(他DVDでの受講2名)
 〈内 容〉 2006年にポーボキ・ピース・プロジェクトを立ち上げ、平和をライフワークとして活動しているAlexander教授より、体を使ったポーボキの紹介『ポーボキ、友情って、なに色?』をはじめ、平和や核問題について一緒に学ぶことを楽しむ講義が行われた。またヒロシマ・ナガサキへの原子爆弾投下のDVDを鑑賞し、ヒロシマについて改めて考え、意見を交換し、立場による事実認識の違いを理解することの重要性についても考えた。核実験や核開発の現状を知った上で、どう思うか? どうしたいか? を一人ひとりが考える講義であった。



7

第7回 [グローバル経済の光と影]

〈担当講師〉 小松正昭(広島女学院大学/特任教授)
 〈開講日時〉 2013年5月25日(土) 14:40~16:10
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 21名(他DVDでの受講2名)
 〈内 容〉 ヒト・モノ・カネ・情報がグローバル化している世界では、我々の生活は先進国経済とも発展途上国経済とも密接に結びついており、経済問題がより複雑化している。このような現状について、国境を越えて活動する企業や個人、団体をはじめ、それぞれの正義や善意、国家間の利害や政策を学ぶことを通して、ユーロ危機などのグローバルな経済事象に関する理解を深めた。またこれらの事象の解決において、宗教、文化、経済、政治利益などを越えた統合的なアプローチの可能性についても考えた。



8

第8回 [世界と宗教]

〈担当講師〉 澤村雅史(広島女学院大学/准教授・チャプレン)
 〈開講日時〉 2013年5月25日(土) 16:20~17:50
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 英語(日本語) 〈参加人数〉 23名(他DVDでの受講2名)
 〈内 容〉 世界における「宗教」の位置づけを、自身の宗教に対するイメージを持った上で、身近な事象や例を取り上げながら学んだ。また日本人の宗教観の特徴について理解し、その限界や短所とともに、可能性や長所についても考えることができた。宗教的世界観と科学的世界観との出会いの中に生きるという人間理解を出発点とし、「常識」とは何か? その「常識」にとらわれない批判的思考について考え、理解を深めた。音楽や東日本大震災後に世界中から寄せられたメッセージを通して、「宗教」を超えた祈りの力や可能性についても考えることができた。



9

第9回 [保健医療分野における留学と発展途上国での活動の実際]

〈担当講師〉 尾形 聡(広島国際大学/教授)
 〈開講日時〉 2013年6月1日(土) 16:20~17:50
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 504中講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 21名(他DVDでの受講5名)
 〈内 容〉 発展途上国での保健医療分野での活動について、尾形教授の実体験をもとに、パラオ共和国の文化・慣習・言語・健康管理・コミュニケーション等について学んだ。また心構えとして、何事も粘り強く続けることが大切であり、留学やボランティア活動に限らず、「海外に行く」ことで、今まで当たり前と思っていたことが実はそうではないことに気づくことが多い現状について考えた。実際の活動経験を学ぶことを通して、受講者それぞれが「幸せの価値観」について考えることができた。

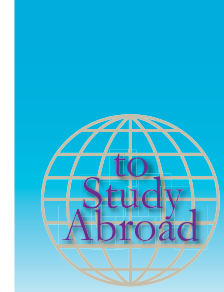


10

第10回 [欧米文化における音楽—キリスト教音楽を中心に—]

〈担当講師〉 佐々木悠(エリザベト音楽大学/専任講師)
 〈開講日時〉 2013年6月8日(土) 14:00~15:30
 〈場 所〉 エリザベト音楽大学 セシリアホール
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 日本語、英語
 〈参加人数〉 18名(他DVDでの受講5名)
 〈内 容〉 キリスト教音楽について、その歴史や文化的背景、キリスト教以外の宗教との関連性だけでなく、教会で演奏される宗教音楽について理解を深めた。パイプオルガンの構造を学び実際にオルガンの中に入り、触れることで、欧米文化における音楽について体験的に学ぶことができた。また、佐々木先生が演奏されるオルガンの音色を聴きながら講義を振り返ることで、文化と宗教のつながりについてより深く考えることができた。





Study Curriculum

11

第11回 [雅楽で感じる伝統文化]

〈担当講師〉 片桐 功(エリザベト音楽大学/教授)
 〈開講日時〉 2013年6月8日(土) 15:40~17:10
 〈場 所〉 エリザベト音楽大学 2号館506号室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 19名(他DVDでの受講4名)
 〈内 容〉 日本の伝統文化として継承されている雅楽について、その起源や歴史、変遷等を学び、雅楽とは何か、そして伝統文化とは何かを考えることができた。とくに巖島雅楽については、「桃花祭」の実際の映像等を通して体感的に学んだ。唐楽と高麗楽(二部伎制)の違いや、越天楽における楽器の配置や種類、音色をはじめ、片桐教授の歌う童笛の楽譜など、映像や実演を通して学ぶことで、より身近に雅楽を捉えることができた。



12

第12回 [戦場から平和を考える]

〈担当講師〉 渡部陽一(戦場カメラマン/ジャーナリスト)
 〈開講日時〉 2013年6月9日(日) 13:00~14:30
 〈場 所〉 サテライトキャンパスひろしま 501・502大講義室
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 日本語 〈参加人数〉 17名(他一般聴講:95名)
 〈内 容〉 戦場カメラマンとして世界の紛争地域取材している渡部氏より、戦場カメラマンになった理由、なぜ戦争が起こるのか、そして戦場に暮らす子どもたちの現実についてお話しいただいた。写真やビデオ、そして渡部氏の迫力ある動きが写真と一体となり、実際に現場にいるかのような臨場感であった。戦争の一番の被害者である子どもの視点に立つことで、戦争の悲惨さや命の大切さについて、より深く考えることができた。また近年の科学技術の発達に伴い変化する戦場の状況や特徴等についても知る事ができた。
 平和構築には、まず相手のことを知ることがとても大切である。チャンスがあれば世界に飛び出して、新しいものを見聞きしてほしいとの言葉からも、世界を「知る」ことの意味や、自分ができることを考える大きなきっかけとなる講義であった。



13

第13・14回 ワークショップ・合宿

14

〈担当講師〉 Ronni Alexander(神戸大学大学院国際協力研究科/教授)
 〈開講日時〉 2013年6月29日(土) 13:30~16:40
 〈場 所〉 広島女学院大学 ヒノハラホール アセンブリーホール
 〈授業形式〉 対面講義、グループワーク
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 11名
 〈内 容〉 これまでの講義で学んだ内容をポポキを用いて振り返り、学んだことを活かすためにはどうすれば良いのかを考え、共有した。いくつかのキーワードをもとに、平和における重要性や留学における重要性、なぜ留学するのか等を、これまでの講義を振り返りながらグループで話し合った。平和の色や音、味、においなどを考え、平和と留学について考え、第15回のプレゼンテーションへ向けワークショップを行った。



15

第15回 [プレゼンテーション・総評]

〈担当講師〉 Ronni Alexander(神戸大学大学院国際協力研究科/教授)
 〈総 評〉 長尾ひろみ(広島女学院大学/学長)
 〈開講日時〉 2013年6月30日(日) 9:00~12:00
 〈場 所〉 広島女学院大学 ヒノハラホール アセンブリーホール
 〈授業形式〉 対面講義
 〈使用言語〉 英語 〈参加人数〉 15名
 〈内 容〉 ワークショップでこれまでの講義を振り返り、平和と留学について考えたことを4グループに分かれて発表した。戦争をなくすにはどうしたら良いのか、文化や宗教を理解することで同じメッセージにもさまざまな表現があり、解釈によって、良い点も悪い点も入れ替わる可能性があること、平和には目を開ける必要があるのか、嫌いな相手とはどのように平和を築けば良いのか、相手を「受け入れること」と「理解すること」について、平和の音や踊り等、各グループが様々な視点で平和を考え、どのように今後の留学において活かしていくのか、プレゼンテーションを行った。
 最後に、Alexander教授及び長尾学長より総評があり、一人ひとりに修了証もしくは参加証を授与した。



■アンケート結果

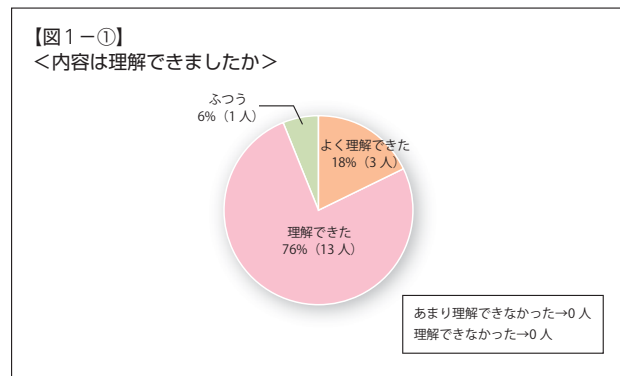
1：アンケートの実施について

本プログラムは、参加者が自分の意見を持ち、それを相手に伝えることができるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を育み、スムーズに留学生活を送る準備ができるよう構成した。約2カ月間に15回の講義を実施し、プログラム最終日に講座全体に関するアンケートを行った。講義最終日に欠席した参加者にはアンケートを郵送した。参加者28名のうち、17名の回答(回収率61%)を得た。その内訳は高校生6名(女性5名/男性1名)大学生11名(女性9名/男性2名)であった。アンケートでは、[1] 講義内容について [2] 学修効果について [3] 留学に対する意識についてを中心に、5段階評価及び記述にて回答してもらった。アンケート結果の詳細は、以下のとおりである。

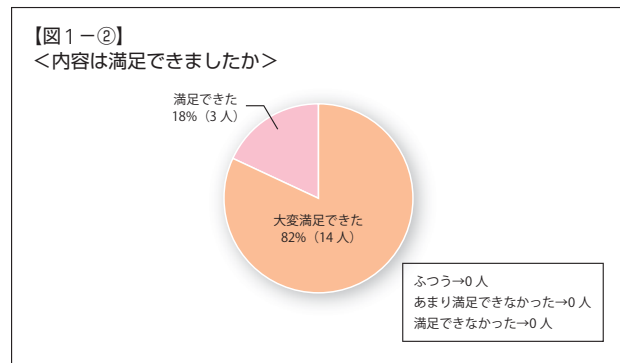
2：アンケート結果詳細

▼ [1] 講義内容について(プログラム内容の理解、満足度等)

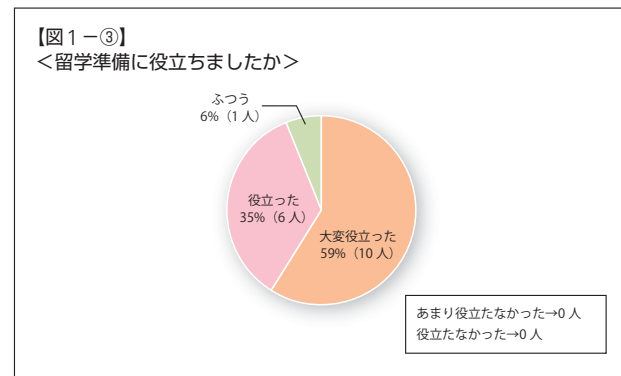
Q1: 「内容は理解できましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-①である。
“よく理解できた”“理解できた”と答えた回答者をあわせると90%を超えている。“あまり理解できなかった”“理解できなかった”との回答がなかったことから、参加者に適切な授業内容であったと考えられる。



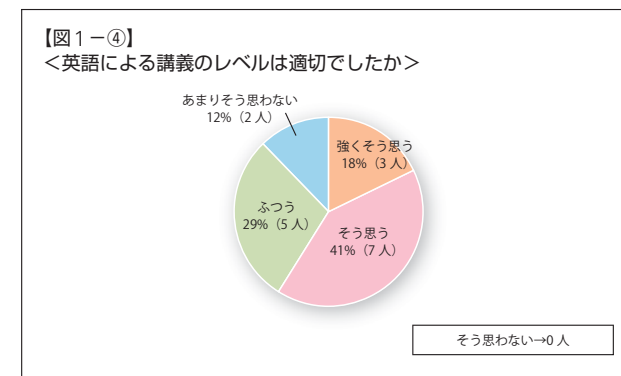
Q2: 「内容は満足できましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-②である。
“大変満足できた”“満足できた”と答えた回答者をあわせると100%であることから、内容は参加者にとって満足度の高いものであったと考えられる。



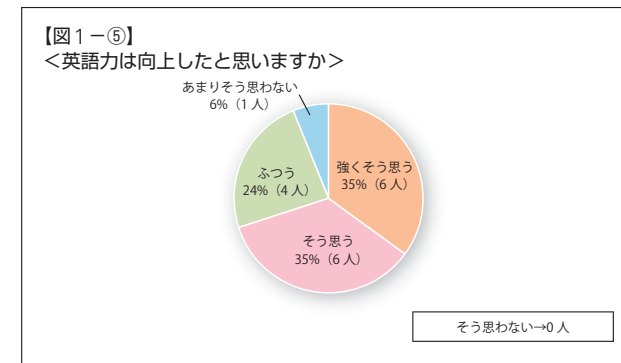
Q3: 「留学準備に役立ちましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-③である。
“大変役立った”“役立った”と答えた回答者をあわせると90%を超えている。“あまり役立たなかった”“役立たなかった”との回答がなかったことから、講座内容が留学準備に役立つものであったと考えられ、満足度の高さにもつながっていると考えられる。



Q4: 「英語による講義のレベルは適切でしたか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-④である。
“強くそう思う”“そう思う”“ふつう”と答えた回答者をあわせると88%で、“あまりそう思わない”と答えた回答者は12%であることから、参加者は英語で行われた講義をほぼ理解できていたと考えられる。一方、「英語での講義が少し難しかった」と記載している回答者もあり、参加者の英語力のよりいっそうの向上が望まれる。



Q5: 「英語力は向上したと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図1-⑤である。
“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると70%で、“そう思わない”と答えた回答者がいなかったことから、約2カ月に及ぶ講座の英語の講義を通して、英語力の向上を実感した回答者が多かったと考えられる。回答者の記載からも、「海外や英語に対する親しみが深まった」「もっと英語を勉強し、海外に出てみようという意欲が高まった」「簡単な英語でもきちんと伝えることができた」等、英語の講義やネイティブ講師との会話、参加者同士の意見交換の中で、モチベーションが上がり、英語力向上につながったことがうかがえる。



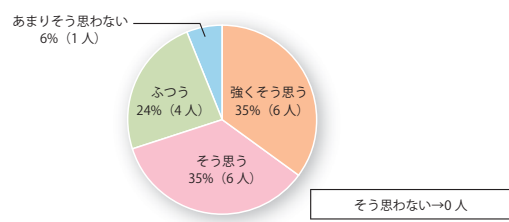
■アンケート結果

▼ [2] プログラムの学修効果

Q1: 「高校生と大学生と一緒に講義を受講することで、学修効果が高まりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが図2-①である。

“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると70%で、“そう思わない”と答えた回答者がいなかったことから、ほとんどの回答者が高校生、大学生混成のプログラム形態に学修効果を感じていると考えられる。高校生からは、「大学生のみなさんの考え方や行動から学ぶこともたくさんあり、将来について考えることが大切だということを実感した」との記載があり、逆に大学生からは「自分よりも年下の人がたくさんいて驚いた。私ももっとしっかり勉強しようと思った」との記載があったことから、互いに良い刺激を与えあい、より学修効果が高まったと考えられる。

【図2-①】
＜高校生と大学生と一緒に講義を受講することで、学修効果が高まりましたか＞



Q2: 「自分にとって最も興味のある講義とその理由を記載してください」

“第9回保健医療分野における留学と発展途上国での活動の実際”が最も多かった(回答者の29%が記載)。理由としては、「医療関係の仕事につきたい参考になった」「日本人と外国人の感覚の差を感じることができた」等があった。
“第12回戦場から平和を考える”と“第3・4回宮島で日本文化について考えよう”が次に多く(回答者の18%がそれぞれ記載)、理由として、前者は「知らないことがとてもたくさんあるのだと気づかされ、日本に生まれたことにとても幸せを感じ、もっと日本を知ろうと思った」「とてもためになった」等があり、後者は「広島にいながら宮島の知識がなくて、いつも外国の方に話せなかったのが、とてもためになった」「より深く宮島について知ることができた」等があった。
また、参加者の興味のある分野や知らなかったことを知ることができたとの理由から、“第5回「アラブの春」から2年＝民主社会の実現に立ちだかる宗教と暴力”“第6回ヒロシマから平和を考える”“第8回世界と宗教”“第10回欧米文化における音楽—キリスト教音楽を中心に—”等が挙げられた。これらの回答より、参加者にとって興味のある分野や、将来就きたいと思っている仕事の分野、知らなかったことを学べ、自らの視野や考え方が広がるような講義が好評であったと思われる。



Q3: 「今後改善を希望する講義があればその理由を記載してください」

回答者の24%より以下の意見を得た。経済や国際社会に関する講義に関して、「専門用語が多く、内容が難しい上に英語での講義だと余計に難しく感じられた」との意見(高校生)が挙げられた。また「講義時間が1.5時間では短い」「参加者が発表する機会があればよかった」との意見が挙げられた(大学生)。プレゼンテーションに関しては、「もう少し準備期間を長く設定してほしい」との意見が挙げられた(大学生)。これらの意見を参考に、高校生、大学生ともに満足できる時間構成を検討する。

Q4: 「留学支援のためのプログラムの内容として、今回受講した講義以外に実施してほしい講義内容があれば記載してください」

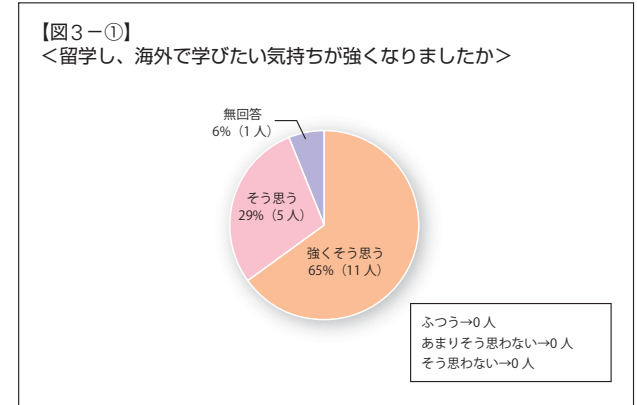
回答者の35%より以下の意見を得た。
・環境問題や核軍縮についての講義
・異文化を多く知るためのプログラム
・英会話のような講義や、英語でのコミュニケーションについての講義
・生徒たちのディスカッションがもっと多いプログラム
・県外の大学との交流
これらの回答より、今後、受講生に「異文化・グローバル・コミュニケーション」がプログラムに網羅されていることへの理解を徹底する。

Q5: 「今回受講したプログラム(留学支援)以外で、受講してみたいプログラムのテーマがあれば記載してください」

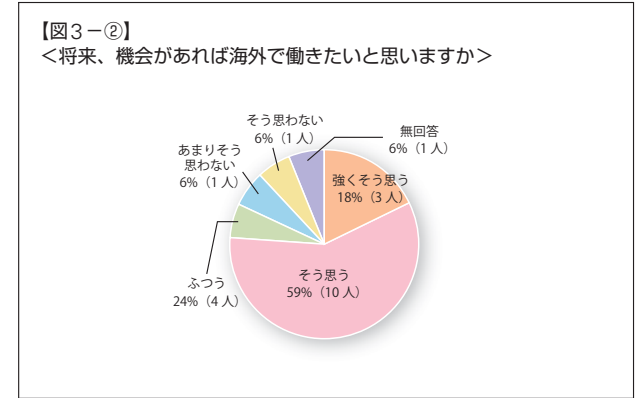
回答者の89%から特に記載がなかったため、本プログラム内容に満足していると理解できる。また回答者の11%より記載のあった「平和学習に関するプログラム」「海外の教育について」等のテーマについても、プログラムに十分盛り込まれている。

▼ [3] 現在の留学に対する意識について

Q1: 「留学し、海外で学びたい気持ちが強くなりましたか」という質問に対する回答をまとめたものが、図3-①である。回答者の全員が“強くそう思う”“そう思う”と答えており、本講座に参加して留学への意識や意欲が高まったと考えられる。「たくさんの分野の講義が聞け、英語での講義も楽しく、留学したい気持ちが強まった」「今まで知らなかったことをたくさん知れて、留学への意識が高まった」等の意見が多く、講義で新しいことを知り、学ぶことにより視野が広がり、留学に対する意識がより高まったと考えられる。



Q2: 「将来、機会があれば海外で働きたいと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図3-②である。“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると77%であり、多くの参加者が海外で働いてみたいと思っているようである。講座参加前から留学を予定している者が多かったため、もともと海外志向の強い参加者が多かったことが予想される。「もっと英語を勉強し、海外に出てみようという意欲が高まった」という意見からも、本講座を通して留学への不安が解消され、コミュニケーションスキルや知識の習得に対する意欲が高まり、将来海外で活躍する自分の姿をより現実的に思い描けるようになったのではないだろうか。

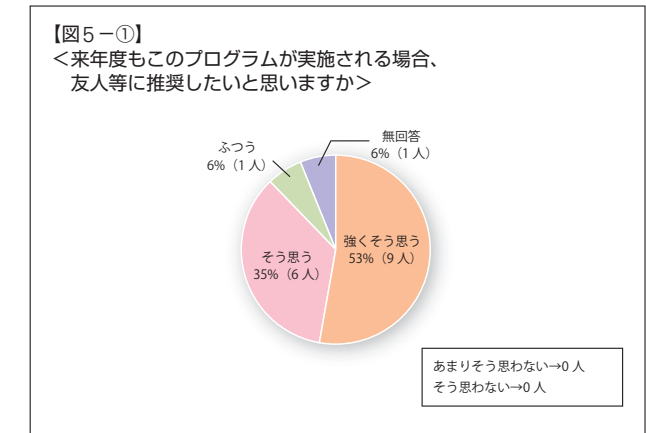


▼ [4] 留学の予定

回答者の35%が留学を予定しており、予定留学先はアメリカ合衆国、カナダ、フィリピン、オーストラリア、イギリスである。留学時期は、早い者で「2013年夏」との回答が数名おり、また留学期間については1カ月～1年と幅広い回答を得た。留学の目的については「語学力向上」が最も多く、ほとんどの留学予定者が目的として挙げている。「交換留学」や「文化理解」等の回答もあった。

▼ [5] その他

「来年度もこのプログラムが実施される場合、友人等に推奨したいと思いますか」という質問に対する回答をまとめたものが図5-①である。“強くそう思う”“そう思う”と答えた回答者をあわせると88%であり、多くの参加者が本講座を他者への推薦に値する内容であると評価している。また「来年度もこの講座にもう一度参加したい」との意見もあり、参加者自身ももう一度受講したいと思う有意義な講座であったと評価できる。



3：考察

アンケートの結果からも、多くの参加者が講座内容に興味・関心を持って学び、理解を深めたと推察される。講座の目的である留学時のコミュニケーションに必要な知識やスキルを身につける機会を本講座にて提供し、また留学の目的やその後の生き方について、一人ひとりがより深く、より広い視野を持って考えるきっかけとなったと評価できる。参加者からの意見・感想においても「普段私たちが深く学ぶことのできないプログラムがたくさんあったので、ためになったし、とても楽しかった」「今まで興味のなかった分野に触れることで、新たな分野に興味を持つことができた。また、今まで興味のあったことにはさらに深く、広い視野を持つことができるようになった。留学への意欲も高めることができた」「世界観が広がった」との記載が多くあり、様々なことを「知ること」が、世界と自分を近づけ、視野や考え方を広げ、自らの可能性を広げる第一歩となることを、本講座を通じ強く意識したのではないかとと思われる。

講座の中頃からは、各講義にて学んだことをもとに、積極的に講師へ質問する場面が多く見られるようになり、日本語だけでなく英語での質問の場面も度々見られた。また、プレゼンテーションは参加者全員が英語にて行い、発表に対する質問も英語で行われ、意欲を持って積極的に学ぶ姿勢が、英語力の向上ももたらしたと考えられる。参加者からは「最初は自分のレベルでは理解できないのではないかと不安だったが、とても楽しく受講できた」「英語は苦手意識があったが、海外にはとても興味があった。このプログラムを通して海外

や英語に対する親しみが深まった」「簡単な英語でもきちんと伝えることができるとわかってよかった」等の感想があり、本講座を通しての成長がうかがえる。また「講義ごとに資料が日本語と英語で配布してもらえたのがとてもよかった」との声もあり、日英両言語での資料作成及び講義前の配布により、事前学習もより効果的に行えたのではないかとと思われる。講座最終日には、一般財団法人ひろぎん経済研究所編集・発行の「はやわかり広島県『第1章広島県の歴史』」を日英両言語にて作成したものを配布し、広島への理解をより深めるとともに、留学先等で広島について英語で紹介する際のツールとして活用してもらえるようにした。

高校生と大学生が共に学ぶことにより、お互いに良い刺激を与え合い、より学修効果が高まったことはアンケート結果からもうかがえる。また立場や年齢、国籍を超えて意見交換やグループワーク等を行い、打ち解けていく様子は、留学先での多様なコミュニケーションを疑似体験できる良い機会にもなった。

アンケート最後の意見・感想では、肯定的な記述がほとんどで、「とても刺激になった。大学に入って受けた講義が一番良かった」「また来年もこの講座に参加したい」「後輩にも勧めようと思う」等の意見があった。これらの意見は、今後もこのような講座への参加意欲を示すものであり、本講座が留学を目指す高校生・大学生が学びたいことが凝縮されている講座であったといえるだろう。



Forever Onward



[今後の課題]

課題1. 講座スケジュールについて

本講座の参加者28名のうち、全15回の講義すべてに参加(DVDでの受講を含む)したのは6名(全体の21%)であった。5月から6月にかけての週末実施のプログラムであったため、体育祭、中間試験、英語検定等の学校行事と重なり、特に高校生にとっては参加が難しかった。昨年度も、参加者が出席しやすいスケジュールを希望する声が多かったこともあり、アンケートにて最適な日程を調査したところ、「土日の開講」と「夏休み等長期休暇中に集中講義」との回答が一番多かった。開講時期を再度検討する必要がある。

課題2. 参加者の募集について

今年度の参加者は28名であり、昨年度の参加者44名より約36%減少している。高校生に関しては、広島県より広島県教育委員会事務局等を通じ県内の国公立高等学校へ周知を行うとともに、事務局からも可能な限り各高校へ訪問し(約55校)、周知を行った。しかし、教員の方からスケジュール的に参加が難しいとの意見を多数いただき、数回の参加でも良ければ参加したいとの申し出がほとんどであった。大学生に関しては、教育ネットワーク中国の単位互換科目に正式登録されたこともあり、単位取得等のメリットが参加を促したように思われる。しかし、本講座の募集のタイミングが各大学の履修登録終了後であるケースが多く、事務局から教育ネットワーク中国の単位互換参加大学に直接訪問等を行い周知したが、あまり参加者が増えず参加大学にも偏りがみられた。課題1にもでてるように、夏の集中講義等も視野に入れて、日程の再検討を行う。

課題3. 講義内容について

アンケートの結果からも、講義内容については文化、宗教、芸術、国際問題、平和等幅広いテーマで多くの参加者が満足したと感じている。講義内容によっては少し難しかったと感じている高校生もいるが、大学の授業を高校生が体験できるということが意義深いものである。講義内容を変えることなく、事前準備や時間構成等を調整・検討することで、高校生もより満足できるよう配慮する。

最後に、アンケートの感想からもうかがえるように、昨年度に引き続き今年度も本講座を歓迎する声が多かった。今後も受講者の声を参考にし、より効果的で有意義なプログラムの開発を目指して検討を重ねていきたい。





「世界の誰かと…」



広島女学院大学



県立広島大学



エリザベト音楽大学



常翔学園

広島国際大学

●連携校：広島女学院大学・県立広島大学・エリザベト音楽大学・広島国際大学